



羽合小学校 学校通信

平成27年5月13日 NO.14

めざすところ

わたしたちの羽合小学校がめざすところは、夢や希望の実現にむけて粘り強く挑戦できる人を育てたいということです。学校で行われる教育活動は、すべてこの実現のために行われます。学級づくりも学習活動も最終的なねらいはそこにあります。

例えば、そうじであれば「担当の場所をきれいにすること」は直接的な目的になりますが、きれいにするためには様々な課題があります。一人ひとりの取り組み方も問題ですし、そうじの方法、時間のことや道具の制約などもあります。問題なのは、自分が（自分たちが）課題をどのように克服して直接的な目的を達成できるか、試行錯誤をしながらよりよい方法を見つけ出し、継続することができることなのです。

また、教科の中でも「問題が解けること」は直接的な目的になりますが、答えを導くためにどのように考え、関わり合って考えを深め、より確かな力にしていくことができるのかが問題です。答えは出れば良いのではなく、どのように答えを導いたのかが大切なのです。

このような試行錯誤をしながら考えをまとめ、答えを導くまでの過程を大切にする学習活動は、夢や希望を実現するための力をつけることとなります。No. 13「旅をさせよ」でお話した「適切な困難さや苦労」が必要なのは、その中で考え、試行錯誤しながら問題解決を図ることが子どもたちを成長させるからなのです。

湯梨浜町教育が目指す「次代を担う人」もまた、夢や希望に向かって主体的に生きる人に他なりません。

【ありがとうございました。】

先日の通信で、遠足についての6年生の感想を紹介しましたが、今回は1年生の保護者の方からアロハノートにいただいた感想を紹介します。

☆ 上級生にとっても良くしていただいているのか、家での妹に対する態度が優しくなった気がします。ケンカもしますが、上級生がこういう風に接してくれているんだと感じます。家ではこの子が一番上の子になるので、上級生に良くしてもらっていることで妹にも同じように接してくれているのだと思います。

遠足など下級生との関わりを通して、上級生が下級生からたくさんの感動を受け取ったのと同じように下級生もまた、上級生の優しさに触れて心が耕されていったのだと思います。上級生はこの1年生にとってまさに「あこがれの上級生」なのだと思います。うれしいですね。ありがとうございました。

羽合小学校 寺谷英則